

## 我妻 昇委員の総括質疑

○町田義昭委員長 次に、順位3番、議席番号3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 よろしくお願ひいたします。私からは、あやめ公園についてということ1点の質問になります。

長井の観光事業もようやく一段落したという時点でありまして、例年ですと観光全般にわたって私よく質問してきたわけですが、本日はあやめ公園にこだわって質問をしてみたいと思います。1点でございますので、1時間がかからないかと思ひます。かからずに終了したいと思ひしておりますので、答弁の方も簡潔にお願いをしたいと思います。

まず第1点目ですが、20年度、ことしのあやめ公園の入園者数、入園料ともに大幅減となったということで報告があったと思ひます。その状況をちょっと挙げてみますと、有料入園者数というのが2万4,293人ということで、昨年度、19年度から77.3%、目標値からいいますと70%の状況なんですね。あと市民や無料期間を含めた入園者数、総入園者ですね、それは3万8,267人で、前年度対比79.2ということ、これは目標設定してなかったようですね。また、入園料収入は1,282万幾らということで、前年度対比76.3%、目標値からは65.7%ということで、大分開きがあったわけですね。このようにことしは大分減少したと。昨年、入園料値上げに踏み切った19年度は、何とか全体では減らさずに、個人客は減りましたが、団体客がふえておりますので、全体では減らさずにまず19年度は過ぎたわけですが、20年度はこのような大幅減になったというのは非常に問題ではないか

というふうにお思ひしております。

ちなみに19年度の料金値上げ時の目標値というのがあったわけですね。料金を値上げしたにもかかわらず目標値は大幅に上げたわけですが、その目標値と今年度、20年度を比較しますと有料入園者数は49%にしか至ってません。市民の入園者数が2万人を見込んだんですが、それと比較しますと45.5%、総入園者数でいいますと6万9,600人も見込んでおったんですが、ことしと比較しますと55%。料金収入では2,764万円も見込んだんですが、ことしと比べますと46.4%ということで非常に悪い成績と言わざるを得ないと思ひます。報告によりますと近隣のゆり園やバラ園などでは1割程度の落ち込みということですが、長井においては20%、目標値からは65.7%という非常に低い数値になっておりますので、これは一体どういうことかということでお聞きしたいと思ひます。

これまで例えばアヤメの開花がおくれたですとか、長雨が続き余り花がうまく咲かなかったですとか、サクランボの不作など、時期外れなどあってあやめ公園の入園者が少なかったなどとさまざまな理由が今までもあったわけですが、今回はこの大幅減少にどのような見解を持っておられるのか、商工観光課長、まずお願いいたします。

○町田義昭委員長 申し上げます。大沼委員が復席されました。

齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

委員ご指摘のとおり、入園者数及び入園料収入ともに大幅な減というふうになりました。

なお、ただいま委員がおっしゃられました数字というのは、先月の産業・建設常任委員会協議会に提出した際の資料と若干異なっております。それにつきましてはゆり園等の共通券の最終的な確認作業を得てからの数字でございます。今おっしゃられた数字が最終的な数字と

いうふうにご理解をいただきたいというふうに思います。

前年度対比で約20%を超える減少になったところであります。飯豊のゆり園、それから村山市のバラ園等々にお伺いをしますと約1割程度の減少であるというふうなことで確認をしていたところでございます。私どもの方が約2割というふうなことで考えますと、この間、岩手・宮城内陸地震、それからガソリン価格の高騰というふうなことで共通の厳しい状況はあったわけなんです、私どもの方のプラス1割部分につきましては、あやめ公園のハード的な部分、それからソフト的な部分まで含めての両方に問題があったというふうに考えているところでございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ですからその問題を聞いてるわけですが、ハード面、ソフト面のということをおっしゃられたわけですが、具体的にどのようなことでしょうか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 まず1点、ハード的な部分につきましては、周辺の花公園の整備がかなり進んでる状況にあるというふうなことが1点であります。

それからもう一つは、ソフト面でございます。ソフト面について、十分な魅力あるいは感動を与えるようなものがなかったのではないかと、いうふうに感じておるところでございます。その根拠につきましては、18、19年度におきまして市民の方の来園者がふえている状況がございました。ちょうどこれは大道芸等々を行って始めたタイミングに合うわけなんです、それが3年目になりまして料金がただの市民の方でもおいでになる方が減ってしまっているというふうなことなどを考えますと、市民の皆さんに対して魅力ある内容でなかった、あるいは不十分であったというふうなところがあるのでないかと

いうふうに感じてるところでございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 わかりました。

それでは、市長にお尋ねしたいんですが、市長は観光というものを非常に重要な産業であると。観光立市というような言葉も以前聞いたこともあるわけですが、基幹産業として重要視して取り組んでいきたいということで取り組まれておられるわけですが、トップセールスマンである市長という立場でこのあやめ公園というもののどのように売り込んでこられたのかなということをお聞きしたいわけです。以前は山形県の近隣県、宮城県を中心とというような言い方だったように思いますけれども、山形の近隣県に力を入れていきたいんだ、または50代、60代、40代もでしょうかね、女性などを中心とした個人の旅行客もターゲットにしていきたいというような具体的な方針というんでしょうか、考えをおっしゃられたように覚えているわけですが、具体的にどのような営業活動というんでしょうか、トップセールスマンのセールス活動をしてこられたのかなということをお伺いいたします。例えばどこそこの代理店に行ってこういうお願いをしたんだ、または宮城県のこれこれこういうところにアプローチをしてみたんだというようなそういうようなことがあればその内容をお聞かせ願いたいと思います。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

私みずから旅行会社、エージェントの方回ったという機会は、残念ながら少なかったです。もう少しこの辺を努力しなきゃいけないというふうに思っておりますが、まず一つは、やまがた花回廊のキャンペーンがJRと県のご協力によりまして、ことし2年目ということで、そういったところにはできるだけ日程調整をして私が出席するようにし、旅行会社と、それからJRの方にいろいろお願いしてきたところござ

います。

また、全国フラワー都市交流に長井市も加入してゐるわけですが、平成19年度は会長市ということで、会長市の方で年に1回のキャンペーンをすることができましたので、ことしの1月にフラワー都市交流推進協議会の経費で仙台市で2日間のキャンペーンを行っております。うち1日私が行ってまいりまして、JRの仙台駅の構内に大きいスペースをいただきながらパンフレットを配ったりごあいさつをさせていただいたりということをやりました。

また、8月に、仙台の方でありますけども、泉パークタウンのところにショッピングセンター、ショッピングガーデン・キャラウェイというところがありますけども、そこで物産市を定期的に7月から開催してゐるわけですが、8月は私が参りまして、その後、地元といひますか、泉区の方では当然長井の紹介をさせていただきましたけども、その後、仙台市内のエージェント4社の方に私が直接お邪魔して、11月には私来ないんですけども、「担当の者が参りましていろんな企画を申し上げますので、ご協力いただきたい」というようなPRをしてきたところがございます。営業してきたところがございます。

あと女性につきましては、残念ながら具体的な活動できなくておりましたが、この辺来年度に向けてこれから営業活動の時期でございますので、ぜひ委員の方からもいろいろご指導いただければというふうに思います。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 少ないながらも花回廊やフラワー都市交流、泉パークタウン、仙台市のエージェント回りということなんですが、ここではあやめ公園についてこだわって質問しておりますので、花回廊はどちらかというとアヤメというよりも桜の方がメインになろうかと。長井は今非常に桜は好評ですよ。花回廊7月で

したか。7月は、アヤメも終わりころですよ。

(「4月から6月です」の声あり)

○3番 我妻 昇委員 その中であやめ公園をどの程度具体的に売り込まれたのかと。その場で会ったエージェントさんにはそれは話していきましょう。そこで名刺交換したりどこそこにエージェントです、エージェントですということで名札もつけておられるかと思ひますんで、そういう営業はなされてももちろんいいんですが、やはりもうちょっとあやめ公園が今、長井は大問題なんですよ。桜もまずまずいい。大明神ザクラもいいし、久保ザクラもいいんだ、ツツジも非常に好評だ、黒獅子も好評、水まつりもあのように盛大にできるんだ。ただ、やっぱり問題はあやめ公園なんだということ、市民も我々も市役所の皆さんもそういうふうに、市長も思ひていらっしゃると思ひますので、まだまだ営業活動、トップセールスマン、東国原知事で有名になりましたけれども、あそこまでいかないうちでも目標としてあのくらいのトップセールスマンであればあやめについてももう少し違ってくるのかなと。外から見た目がですね。

また、フラワー都市交流も儀礼的なところも多いと思ひます。どのくらいの営業活動になったのかですが、ただ泉パークタウンは、今月もありますよね。私も行ってみますけれども、あそこでどの程度観光についての営業ができるのか。水ですとか果物、農産物については営業になるかと思ひますけれども、どの程度観光の、特にあやめの営業になるのかなと、そこをぜひ検討していただきたいと思ひます。私も現場に行つてどのような状況なのか見てきますので、ぜひ市長もまた行く機会があるかと思ひますので、ぜひ仙台圏、宮城県を中心に営業していきたいということもありますんで、農産物だけでなく観光をどう売り込むかというところにぜひ今度力を入れていただきたいのですが、いかがでしょうか。

+

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻委員がおっしゃるように観光を売り込むというのはもちろん大切でございますけれども、私は例えばあやめ公園だけを売り込むというのは難しい時代じゃないだろうかというふうに思っています。いわゆる地域を、さらに例えばあやめ公園だけじゃなくて、ゆり園とか、あるいはダリアと連携してやるとか、そういった取り組みが今必要なんだというふうに思っております。あやめ公園の課題は、委員ご指摘のとおりたくさんあると思いますし、あやめ公園そのものをもっともっとPRするということは大切だと思いますが、やはり今大切なのは例えばエージェントに売り込む際もあやめ公園をフラワー長井線利用していただいて、あやめ公園駅でおりていただいてごらんいただく。同時に、すぐ近くの丸大扇屋とか長沼彫塑館ごらんいただいて、そして昼食はおいしいおそばを食べてくださいとか、そういうセットでのいわゆる「着地型観光」という形で持っていけないと、あやめ公園だけを売り込もうとしてもなかなか難しいというふうに思っております。そういった意味からは物産と観光というのは一体ですし、それと例えばそういう文化、歴史とか、そういった素材というものも非常に重要な要素だろうというふうに思っておりますので、まず一つは、そういうセットで長井という地域を売り込みたいということ。

あとあやめ公園については、委員ご指摘のとおりですので、やはりハードもソフトもかなり磨いていかないと、ブラッシュアップしていかないと難しいというふうに思います。ことしなんかは、ちょっと長くなって恐縮ですけども、「夜7時以降危険だからあやめ公園には近づくな」、そういううわさがあつたぐらいでして、ということは夜はイベントも行っておりませんし、電気はついておりますが、お客さんも少ないということで店も露天商なんかも閉めてしま

う。そうすると見に行った人が危ないと、そういうふう感じたぐらいの閑散とした状況であったと。ですから観光協会のようにお祭りは委託してるわけでございますけれども、観光協会とも運営の仕方あるいはいろいろなお祭りを行っていただいているわけですけど、もう少し知恵を絞って、あるいは必要だったら予算もつけてももう少し工夫していかなきゃいけないんじゃないかなと。そちらの方の努力もしていかなきゃならないと思います。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 セットで営業しなくてはいけない、着地型観光というのは、そのとおりだと思います。

ただ、長井市を売り込む上で桜とかツツジ、黒獅子がどうしても目立ってしまうと。だからこそあやめに力を入れようとしなければ相手はそちらの方にだけ目いって、あやめがどうも見過ごされてるのが今の現状ではないかなと。過去のもの、「昔はやってたよね」というような受け取られ方をするのではないかということ懸念してあやめに特に力を入れてほしいという趣旨でありますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

3番目に、入園料の値上げというのは私は間違っていたというふうに今でもひしひしと思ってるわけですが、入園料値上げを決めたのは19年の3月議会でしたけれども、そこで市長は、「あやめ公園は収益事業であって福祉事業ではないんだ」ということをしきりにおっしゃっていました。そのとおりだと思います。ただ、ことしの状況を見ますと大分、とても収益事業にはほど遠い結果ではないかなと。特に19年度との目標値との比較をすると46%ですとか45%ですとか、そういうような数字、信じられない結果になるわけです。これは数字だけ見るともはや福祉事業並みと言えるのではないかなと思っ、なぜならば一般企業ならばもたないわけで

すね。倒産間違いないと言わざるを得ないわけですね。料金を上げて収益が上がるのならば山形鉄道は赤字にならないと私は思います。能力のない経営者でも会社はもうかるはずなんです。料金を上げて収益が上がるのならば。しかし、現実はその逆なわけです。入園者が激減した最大の要因、先ほど商工観光課長がソフト面、ハード面、地震、ガソリンなどというような理由を挙げられましたけれども、私は間違いなく最大の要因は料金値上げだと思っています。

市長にお伺いいたしますけれども、料金値上げは間違いだったとは思っておりませんか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私は、料金値上げは間違いだとは思っておりません。市外からいらっしゃるお客様は、この周辺の方はわかっていらっしゃると思うんですが、料金は幾らだということは多分ご存じなくいらっしゃる。700円か、入るときに高いなど。じゃあやめたと戻られる方は少ないんじゃないかと思えます。私は、一番大切なのは、700円払っても満足いただけるようなそういうあやめ公園にしなきゃいけないんだということを19年の3月のときに議会でも申し上げましたし、事実そのように19年度については商工観光課を中心にかなり努力された。ただし、20年度については、ちょっとその辺は少し行政側としても努力が足りなかったのかなと思います。

また、先ほどからありましたようにハードも相当時代おくれですし、いらした方が中入って満足感というのが本当に、アンケート調査してないんですけども、これはただだったら満足するかもしれませんけど、有料だったら難しいんだろうというふうに思いますし、またイベント等についてもちょっとにぎわいがなくて寂しいなというふうに思っておりますので、そこをやっぱりこれから観光協会と一緒に直していかなくちゃいけないし、必要だったら議会からもご承

認いただいてハード整備も投資もしなきゃいけないんじゃないかと思っております。そういったことから料金値上げが主たる原因ではないというふうに思っております。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 私は、料金が700円と聞いて戻る方は少ないのは、19年度はそうだったでしょう。それほど個人客も減ったといえども、それほど減ってません。ただ、20年度に来てこの料金値上げが響いた。それはリピーターになってもらえなかったからだと思うんですね。700円と聞いて戻らなかった。入ってみた。ただ、もう二度と来たくないと思った方がたくさんいた。また、それが口コミとなっていった可能性もある。個人客においてですよ、ある。だからこそ入園料の値上げは間違いだったと今認識されるべきだと私は思っております。

また、時代おくれのハード面ですが、それを逆手にとる方法もなくはない。古さですとかレトロ感というんでしょうか、そういうことをわざと出すというんでしょうか、そういうことも考えられるわけで、もちろんハード面を整備するのにお金かかるわけですけども、そればかりが能ではない。

私も観光協会の一員として少なからず来ていただいたお客様に満足度を上げていただくようなことも再三いたしましたけれど、なかなか厳しいのが現実であります。大道芸をして果たして本当に喜んでもらったのかどうかと非常に不安ですし、私は流しそうめんというの2年やりましたけれども、流しそうめんも本当にこれで観光客がふえるんだろうかと疑問に思いながらも一生懸命したわけですが、「ことは流しそうめんあったから来たんだ」というふうに、米沢、子供連れの奥様が「わざわざ来たんだよ」ということ言っていたときにやってよかったなというふうに思ったわけですけども、そういったボランティアなり観光協会の方々の

+

努力があってこそだと思いますので、ぜひそういった方々の努力を無にしないためにも入園料の値上げというのは20年度になってどうやら間違っていたのではないかと。21年度は検討していきたいというようなお考えがないのかどうか、もう一度お聞かせください。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 我妻委員が観光協会の理事としていろいろご努力いただいていることには敬意を表したいというふうに思います。本当にありがとうございます。

私が先ほど施設のこととも言いましたけども、施設が古い、ぼろいといいますか、老朽化しているということを私は申し上げてるんじゃないかと、あやめ公園行っていただくとわかると思いますが、平面からしか見れないんですね。今そうじゃなくて、やっぱり高いところから見てみたり、あるいは底から上をのぞけるとか、さらには何か乗り物に乗れるとか、あと例えば庭園的なものを望む方も多いです。ですからつつじ公園はすごいなど。ただ、あやめ公園はどうしても畑に見えますので、そういった意味でちょっと今の時代にマッチしない部分があるんじゃないかということを私は申し上げてるので、施設を新しくすることがいいということじゃなくて、あやめ公園そのものの見せ方をいろいろ工夫しなきゃいけないんじゃないかと。

あと委員がおっしゃいますように、イベントというのも非常に重要なものだというふうに思います。しかもあやめ公園の場合は、4ヘクタールと非常に大きい公園ですので、そういったイベントをすることによって魅力が増すということがあるかと思います。私としては1度上げたということを過ちだったら、これは直さなきゃいけないと思ってますけども、まだまだその料金でいろいろ工夫して満足いただけるようなそういった努力をこれからやっていながら判断すべきものというふうに思っておりますので、

当面この金額で主催者側として、あるいは迎える側としてもプレッシャー感がありますが、それを乗り越えてやっぱり満足いただけるような努力をしていきたいというふうに思っております。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 記憶では17年度も、18年度も、19年度も私は「アンケート調査をすべきだ」ですとか「経済効果、地元にとのくらい効果があるのかというのをちゃんとわかるべきだ」というようなことで再三申し上げてきたんですが、具体的な来園者に対するアンケート調査というのは行われていないのが現実ですよね。そこをきちっとしていただきたいなと思います。こういうふうにしてほしいと考えてる、検討するとその都度答えられるわけですが、本当に具体的に調べてもらって何が足りないのか、どう、ハード面整備できないけれども、ここはこう工夫できるんじゃないかというのをもっと真剣に議論する場を、観光協会に任せっきりであったりじゃなくてしていただきたいなと。それには私も少なからず協力させていただきたいと思いません。間違いではないということです、まず次の質問に移ります。

観光協会の今後ということですが、観光協会の会長が年齢のこともあり、また体調不良ということもあって今期限りで退任されるというふうにおっしゃられてるようです。私が直接聞いたわけではありませんが、そういうふういろいろな方におっしゃられてると聞いております。それに伴って三役や理事の方々など会長がやめるんだったら私もというような人もいるのかもしれない。出てくるのかもしれないと思っております。もともとこの観光協会が目黒前市長が強引に改革をした状態なわけですよね。3年前ですか。丸4年にならんとしてるわけですが、そういった過去がある、それを引きずってるというんでしょうか、のが現観光協会

なわけです。ですのでぜひ来期、21年度の観光協会は内谷市長のリーダーシップが必要なのではないかと。本来ならば独立したこの民間の団体、観光協会ですので、それは市長がとやかく言う筋合いはないわけでありますが、やはり引きずってるわけです。強引に改革したということがどうしても引きずらざるを得ない状態なわけで、それで会長もやめられるというのであれば、やはりここは内谷市長のリーダーシップを発揮すべきではないかなというふうに私なりに思っているところでもあります。その辺を市長はどう考えていらっしゃるのか。今後の観光協会のあり方というのがありますよね。場所があそこがいいのかという議論も再三してきましたし、「市役所に戻した方がいいんじゃないか」というような根本的な話も出ておりますし、さまざまなあり方論というのがありますけれども、まずはそれも含めて今後の観光協会を市長としてどう考えておられるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 観光協会の役員の皆様の人事については、市長にあるというふうには私は理解しておりません。ですから例えば3年前の、ちょっと私どもあのときは我妻委員と同じように理事という立場で非常に私は反発しました。ただ、同じようなことを繰り返すべきじゃないなというふうに私は思っておりますので、あくまでも観光協会というのは任意の皆さんのボランティアで成り立ってる組織でありますので、会長がやめられる、退任される、勇退されるということであるとすれば現理事の皆様といろいろ話し合いなんかをしながらこれからのことを一緒に考えさせていただきたいなというふうに思います。

ただ、今のところこちらからお願いしないと観光協会の理事の皆様との協議とか三役との話し合いというのはありません。私就任して1回

しかまだ三役の皆さんと話ししておりませんので、ですからそういった意味でいえばあやめ公園の例えばお祭りも含めてお願いしたいことは山ほどあるんですが、ただ理事の皆さんがボランティアでいろんなことを創意工夫されて努力されてるということを尊重して余り委託した以上は言うべきじゃないなというふうに思っておりますけれども、観光協会の組織そのものについては、これは基本的な問題でありますので、ぜひ理事の皆さん、現役員と話し合いをしながら、委員ご指摘のように場所の問題ですね、あるいは組織の体制の問題、今は非常勤の専務理事と事務局長が常勤1人でやっておられるわけですから、そういった意味からもどういうふうにしたらいいかということを経営的に話す場を設けて意見交換したいと思っております。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 私市長が人事のリーダーシップをとるべきだということではなくって、過去がそういう過去でありますので、空中分解する可能性も私はないことはないなと思っております。もうやめたと、そんな方はいらっしゃらないと思っておりますけれども、なりかねないというような過去がありますので、ここは市長もある程度のリーダーシップをとっていくべきではないかということでもあります。会長がだれがいいか私に決めさせてくれというようなそういうようなことをすべきだということではありません。

市の方から、こちらからお願いしないと観光協会の理事、三役と話し合いがないというのは、観光協会に問題はかなりあるかと思っておりますけれども、それでもいいんじゃないかなと思うんです。市からこういう話し合いをしたいだけでも、しようとどんどん言っていると思うんですけれども、言わないと話し合いがないというのではなくて、全くそれでもいいのだと思いません。観光協会から言ってこないというのは、そ

+

れはいろんな問題があるからなのかなと思いますので、ぜひあり方、今後のことについても積極的に市から話をしようと言って何ら差し支えないのではないのでしょうか。ぜひ積極的に観光協会と話をし、今回私が取り上げてるあやめ公園というものを特に論じていただきたいなと思います。ほかのお祭り、イベントは、いろんなアイデアがいろんな方面からもお願いしなくても生まれてくる非常にいい流れになっておりますので、あとはあやめ公園ということが問題ですので、そこを特にお願いしたいと思いません。

それでは、最後の質問になるかと思えます。意外と早く終わりそうですね。あやめ公園の話題ですので、ついと言うと怒られるんですが、高台遊園地について質問させていただきます。

高台の遊園地で遊具の事故がありましたよね。4月ですね。4月に事故があったわけですが、それ以来遊具が使用できない状態が大分続いているというふうに見ております。それは一体どういうことなのかと。4月の事故というのは、うんていの鉄棒のとめている部分が、ビスというんでしょうか、ねじが抜け落ちて、それがとまらなくてくるんとかえってしまうということとでちょっとけがされたということなわけで、うんていの補修、修理だけだったらもう簡単なわけですよね。にもかかわらず今もってうんていどころかコンビネーション遊具ですとか滑り台ですとかつりタイヤは撤去されたのもありますね。ブランコなんか撤去されておりますね。鉄棒は使用禁止になっておりますけれども、使用禁止や撤去というのは、なぜそこまでそうってしまったのか。うんていだけの問題ならばおかしいなというふうに思っているわけですが、まずそれなぜなのかということと、復旧のめど、それらは今後使えるようになるのかどうかということをお聞きしたいと思えます。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

うんていの事故の後の若干の経過を申し上げますと、例えばブランコなどがございました。点検の際には異常を認めなかったものだったんですが、全体がぐらぐらするような状態になりました。それは後から確認をしますと大きな子供といえますか、高校生とかが何かかなりの力を入れて遊んでいたようだというふうな状況がございました。最初の事故自体はうんていという、ねじとかくぎとかが緩んで、あるいは古くなっているというふうな状況で認識しておったんですが、ブランコの例などをとりますと支柱自体が腐れ始めてるといえますか、腐れてしまっているというふうな状況がかなりはっきりしてきたというふうなことがございます。大きな力が加わると全体が倒れてしまうというふうな状況になりつつあるというふうなことで、その時点で一部使用禁止等々を行っているところでございます。

また、7月に入ってからなんですが、公園施設の整備士の方においでいただいて現状を見ていただいたところでございます。その方からの報告では、とにかく使うことは危ないというふうなことでございまして、一部使用禁止あるいは撤去というふうな状況になっているというふうなことでございます。

それから復旧のめどというふうなことでございますが、基本的に現在の施設について復旧あるいは手直しというふうなことはまずできない状況であるというふうなことでございまして、まず根元からぐあいが悪くなっているというふうな状況ですので、大変な事業になるというふうなことで、状況を見ながら今の施設については整理をせざるを得ないのでないかというふうなことでございまして。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 復旧できないということですか。4月の事故のときにこういうことだっ



たんですよね。以前にも、平成12年7月27日にも同じ遊具で小学生が落下して全治3週間の骨折事故が起きた。そのときまでには4月と11月の年2回だけの点検作業だったが、その12年の事故以来4月から11月まで毎月点検を行うようにしておりました。それで20年4月の3日に点検作業を行う予定だったんですが、4月の2日、前日に今回の4月の事故ということなんだというふうな説明でしたよね。ということは平成12年の事故以来は4月から11月まで毎月点検してるわけですよね。毎月点検していて、4月の2日に事故あって、改めてまた点検してみたらほとんど使えないというのは、それまで行われていた点検というのは何の点検だったのか、だれが点検したのかと。今回使えないというふうに判断したのは、その点検者ではなくて、整備士とおっしゃいましたっけ。整備士でしたか。その辺がちょっとわからないんですよね。4月から11月まで行う点検と今回の事故が起きて判断したこととどういう関係になっているのか。それまでどんな点検しておられたのか、その辺ちょっとお聞かせください。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 点検につきましては、例えば滑り台であれば手すり部分のばり等の有無あるいはさび等の有無の確認というふうなことをやっておったというふうなことでございます。

事故以来から特にあやめ公園の高台部分につきましては、ちょっとしたかげんといいますか、あるいは想定されてない使い方をした場合にそれが支柱等にすぐに破損が起きるというふうなことがあったもんですから、月2回、6月から点検をしております。

ただ、その場合ですとこちらの私どもの方の点検作業というのは、先ほど申し上げました通りあるいはねじ等のしっかりと押さえられるかどうかというふうなことの確認にとどまって

いるわけなんです、その施設の全体としての安全性等につきましてはなかなか私どもの方の知識が足りない部分でありました。たまたまこちらの方においでになった公園施設の整備士という資格を持っている方に見ていただきまして、全体として専門家の方から見てもらったというふうなことです。その結果としては、安全上十分に確保できないというふうな今の基準に照らしてふぐあいな施設部分もあり、また特に支柱部分が腐りかかっているというふうなことから使用することには大変問題があるというふうなご指摘をいただいたというふうなことでございます。基本的には専門的な立場から調査をしていただいたというふうなことでございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 ということは整理しますと、これまで平成12年の事故以来行っていた点検というのは、いわば素人でもできるような点検、さびやねじの緩み、ばりといいましたか、にとどまっていたということ。今回の事故、20年の4月の事故を受けて専門家の整備士に聞いたところ、根本的にもうこの遊具はだめだというような判断が出たという、そういうことですよ。ということは平成12年の事故、7月27日の事故以来の点検というのは何だったのかなと。その事故というのは本当に生かされてなかったのではないかとというふうに疑問に思うところがあります。

きょうはそこについての言及するわけではなくて、この高台遊園地のあり方というんでしょうか、そもそもこれは都市公園になっているかと思えます。長井市にはいろんな都市公園あるわけですが、ほとんど市の持ち物、市の土地だと思いますね。借地料を払ってるのは、ここだけではないでしょうか。その辺はちょっと私が断定はできないわけですが、465万円ほど年間を払い続けて都市公園として借りて、市民に使っていただいているわけですが、今の状態です

+

と465万円も払って、しかも使えないという、費用対効果から見たときに最低ランク、もう目も当てられないというような都市公園ではないかということです。少なくともまずこの遊具を使えるようにしなくてははいけない。また、もっとそもそも論になりますと借地料を払って都市公園を運営するというのは、これは正しいあり方なのか、姿なのかということです。答弁者には商工観光課長しかしてなかったので、財政課長とか建設課長にも質問すればよかったというふうに後悔してるんですが、商工観光課長、わかる範囲で構いませんが、まず今言った少なくとも使える状態にしなくてははいけないのではないか。それをいついつまでにとか、そういうものを計画立てなくてははいけないのではないか。あとそもそも借地料払って都市公園というのは本当に正しい姿なのか、この2点について商工観光課長、お答えをお願いいたします。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 まず1点目の使える状態にする点につきましてでございますが、地元の方からの要望もあります。それからまた、あそこの公園自体はかなり広い範囲から子供たちが集まってご利用いただいているというふうな状況がございます。整備あるいはリニューアルといったふうな部分につきまして、企画調整課あるいは建設課等々と今検討をしているところでございます。

それから、借地料を払って公園として利用しているというふうな部分につきましてでございますが、先ほど申しあげました関係課との協議の中で同じような議論が出された状況がございます。使うものであればきちんと購入をするというふうな考え方も必要だろうと、あるいは新設することができなければ返却をするというふうなことも筋だろうというふうな意見もそれぞれのところからいただいているところでございます。

なお、これにつきましては、できるだけ早い機会に検討を進めていきたいというふうに考えてございます。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 市長にも同じ質問をしたいと思います。

ほかの課長に振っていただいてもいいんですけども、この公園というのはここだけですよ、借地料払って公園を運営してるのはここだけだと私は思ってます。それで間違いないか、また、そういうあり方がそもそもいいのかどうか、また遊具というのをこの借地料を払って遊具が使えないというのはもう全く最低ランクなわけですが、その辺のところ、同じ質問になりますが、市長からの答弁をお願いします。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

長井市内で子供たちが遊具で遊べる場所というのは非常に限られてるというふうに思います。そういったことから、この高台の遊園地といいますか、これは非常に重要だなというふうに思っておりますが、委員ご指摘のとおり、これが借地だということもかなり問題だなというふうに思っております。そんなことから、これからのように対応していくかですけども、きちんと検討しなきゃならないというふうに思っております。

なお、財政課長の方からもこの件について、実態とかこれからの考え方などもちょっと答えさせますので、よろしくをお願いいたします。

○町田義昭委員長 平 英一財政課長。

○平 英一財政課長 私からわかる範囲でお答えさせていただきます。

商工観光課の方から協議がございまして、やっぱり遊具の関係、あのまま黄色いテープを張ったままで置くわけにはいかないと、当然のことです。整備をするについては、特別な財源も当てがありましたもんですから、あそこ

の公園を直すか、さらには遍照寺の東にあるいちよう公園ですか、そこも整備してそこに遊具を置くかとか、いろんなケースを検討しました。ただ、1つには、今、委員がおっしゃられるように450万円以上の借地料を払ってる都市公園の遊園地なわけです。今まで幾ら払ってきたかというふうなこともありまして、さかのぼられるだけさかのぼったところ1億1,000万円以上ですか、払ってきているというふうな経過がございます。

(「何年から」の声あり)

○平 英一財政課長 ちょっとそれはわかりませんが、そういうこともありましたもんですから、これはできるだけ早く買い取るか、もし神社の都合で買い取りができないとすれば、都市公園の面積から外してお返しするか、これをはっきりさせるべきだということで、もし買い取ることができるのであれば、あそこの公園の遊具を整備するなりを検討した方がいいだろうというふうなことで、今、商工観光課の方に検討を進めてほしいというふうな状況であります。

○町田義昭委員長 3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 1億円超えるということであまりびっくりしたわけですが、相手もいることなんであんまり詳しくは触れませんが、やはりあり方について、よくあやめ公園を論ずるときに高台が話になるんですね。必ず昔の話が出てきます。ですので、決して公園、遊具、都市公園というものを否定するわけじゃなくて、高台のあり方についてももう一回論じるいい機会ではないかなと。先ほどの観光協会の今後の話、あやめ公園の今後の話と含めて高台は今こういう現状なんだと、整備するにはこうなんだ、もしかすると代替用地という考えもあるんだ、財政的に考慮するとこうなんだということをざっくりばらんに協議をして、ある程度の計画を持ってあやめ公園とともに高台も検討していただきたいと思います。

小さい子供を持つ親にとっては遊具がある公園というのは非常にありがたい、あそこに連れていくと時間があつという間に過ぎるということで非常にありがたがられておりました。今、「使えなくて本当に残念だ」というふうに声はかなり聞こえております。ですので、ぜひいろんな面から検討を重ねていただいて計画を示していただきたいなと思っております。

私の質問は以上でございます。ありがとうございました。

### 大道寺 信委員の総括質疑

○町田義昭委員長 次に、順位4番、議席番号4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 我妻委員が5分ぐらい縮めていただきましたので、私もそのつもりで質問させていただきたいと思っております。

私の方から通告してあります2点について質問をさせていただきます。

まず第1点につきましては、生活排水事業についてということでもありますけれども、私は本年3月定例会の一般質問で特定環境保全公共下水道事業について質問いたしました。その際、事業整備予定区域である五十川地区との話し合いをお願いしてまいりましたけれども、これにつきましては建設課から説明と質疑の場を持つていただきましたので、まずもってお礼を申し上げます。

さまざまな意見が出ましたけれども、担当の方もお聞きになっておりますので、ここでは触れませんが、ぜひ今後の運営に生かしていただきたいと思っておりますし、今、地区として今後の対応について話し合いをしておりますけれども、さまざまな考えがありましてなかなか苦慮してるようでございます。その点も含めて以

+